

現地視察

森林・里山と林業の現状

日時：平成25年8月3日（土） 10:00～15:00

講師：近藤 稔（名古屋大学大学院生命農学研究科助教）

概況



科目 現地視察（森林・里山と人間）

第1限（豊田森林組合木材市場）

林業の世界は経済的に厳しい現状が続いており、木材市場での材の価格は生産コストに比べて低い。そのため、コスト削減をはかるためにプロセッサやフォワーダなどの高性能林業機械を導入し、人件費や作業時間の削減を行った。

高性能林業機械を導入した場合、作業時間は約三分の一に削減され、コスト削減に大きく貢献しているというデータも出ている。

また、北欧においては、作業員の安全を守るために高性能林業機械を導入しており、その結果、安全性の向上とともに生産性も上がったという一石二鳥の結果となったという報告もある。

木材加工した際に余ったバイオマスの効率的な利用方法についても、北欧では処理機を導入し、無駄のない生産に踏み出している。

第2限（高性能林業機械間伐現地）

日本の林業の経営は厳しく、国や県の補助金なしでは成立が難しいところがある。

第3限（足助町木材協同組合 小径木材加工工場）

小径木材加工工場では、業者から原木（間伐材）を受け入れ、皮むき機で処理した後、乾燥させて、木製看板や小学校の教材、家具、木柵など、いろいろなものに加工する。

まとめ

林業を行っていく中で、主伐・間伐から木材の加工までのプロセスにおいて、いかに効率よく、環境にやさしい作業システムを確立することが今後の大きな課題である。